個人質問

川原　春夫 議員

●成東病院について

Q　地域医療の崩壊が叫ばれる中、成東病院が抱える諸問題は、想像以上に大きく、かつ重大であると認識せざるを得ません。国保成東病院リフレッシュプランには経営のあり方、経営責任者の不在感、構成市町首長のコンセンサスの問題、独立行政法人化に関しての作業の進捗状況と今後の計画等について述べられています。その内容も踏まえた上でお伺いいたします。第１点、赤字の自治体病院の再建への決め手は何であるとお考えでしょうか。

A　市長　赤字病院の再建には、医師の確保が決め手の１つであると思います。

Q　自治体病院再建への決め手として、職員の意識改革・現場の声に耳を傾けるということが大事になってくると思います。患者本位の医療を提供するかということが自治体病院再建への決め手になるであろうと私は思いますが、その点についてはどのようにお考えでしょうか。

A　市長　再建という立場からそれはそのとおりだと思います。

Q　１つの提案ですが、看護師さんの中から副院長を検討していただきたい。それと、コンビニ受診を控える・ファミリードクターを持つことの重要性・定期的なヘルスチェックの受診で早期発見・早期治療に努める等について、地域医療を守る点からも、市民の皆様に発信していただきたいと思いますがどのようにお考えでしょうか。

A　市長　現場の声が院長にしっかり届くよう経営管理会議のメンバーを大幅に入れかえをして、皆さんの意見を吸い上げるという形をとらせていただきました。また、看護師から副院長をという点についても、これまで検討したこともありますが、将来的にも常に考えて、いろんな要素から決定しますけれども、考慮していると御理解をいただきたい。独法化後、山武市独自でデザインすることができる。今までの成東病院の役割と多少シフトをして、例えば予防医療や福祉との連携というようなことについても考えていかなければいけないと考えます。成東病院のこれからのあり方につきましては、議会、地元の医師会、市民の皆様方のご意見をいただいて、市民のために一番望ましい病院像というものを作り上げていかなければいけないと考えています。

Q　次に山武市単独で成東病院の果たして経営が成り立つとお考えでしょうか。市からの分担金５億円という数字が果たして妥当な数字であるのかお聞かせ下さい。

A　市長　経営を成り立たせる病院を、どのように造っていくかと考えたときに、１つの方向性として、５億円という市民の負担をいただいて運営することはどうだろうかという、１つのたたき台とお考えいただければと思います。

Q　３５０床を２３０床に想定したときの試算表、仮に老人保健施設経営を取り入れた場合の試算表がいつごろ策定されるのかお聞かせ下さい。

A　市長　２３０床という数字が決まったわけではないが計画を進めていく中で、当然独立行政法人ができ上がった後の計画というものは示されるはずでありますので、しかるべき時期にお示しができると考えております。

Q　平成20年度実施計画では地域医療体制の充足度現在値３・７％になっています。他に何か数値がありますか。

A　保健福祉部長　充実している３・７％、普通42・２％、充足していない50・５％です。

Q　そのような結果に対し、今後どのように改善を図るべきとお考えでしょうか。今後の病院改革に対する取り組みをお聞かせ下さい。

A　保健福祉部長　病院の事務局、（独法化）準備室、保健福祉部が三位一体となり病院改革に取り組んでいきたいと思います。

市長　地域の医療の充実をさせていくには、市としての戦略的な方向付けが必要。地域医療にしっかりと取り組むことは、山武市としての大きな戦略であると考えています。

個人質問

市川　陽子 議員

●福祉行政について

Q　子育て情報が一目で分かる各種支援制度や届け出の仕方や救急車を利用する前の応急措置のチェックシート等を載せた、市独自の子育て支援サポートブックを提案します。

A　市長　各対象別に案内書やパンフレットを配布しているが小冊子は、研究しさらに良いものを考えます。

Q　厚生労働省より平成20年度障害者雇用施策関係予算のポイントの概要を受けて、市の取り組む方向性を伺います。